

# 女性研究者の割合増やそう

国内の大学の女性教員らが中心になり、女性研究者の割合を増やすための数値目標の設定などを求める提言をまとめ、文部科学省に提出した。各大学に対し、女性教員の地位改善へ必要な対応を促している。

内閣府によると、日本の女性研究者比率は14・4%で、先進国で最低レベル。米国の33・6%の半分にも満たない。准教授、教授となるにつ

## 大学教員らが提言 数値目標を求める

れて女性の比率は下がり、提言した女性教員の一人は「上に行くほど孤立しやすい」と指摘する。

提言をまとめたのは、東京大、京都大、九州大、名古屋大、早稲田大、慶応大など国内14大学と産業技術総合研究所などの女性理事、副学長、研究者ら約50人。政府の成長戦略が「2020年に指導的地位の3割以上を女性に」と掲げたことを挙

げ、国内の全大学で教員・研究者、役員に占める女性の割合を増やすための到達目標を設けるよう求めた。

さらに、教員の雇用や昇任を決める人事委員会委員の3割以上を女性にする▽女性教員の雇用、昇進を推進するためのガイドライン策定▽育児・介護中の女性に対する支援制度の充実——などを呼びかけた。

京大の稲葉力三副学長は「一つの大学だけでは現状は変わらない。横のつながりを深め、情報共有をしなから、取り組みを広げていきたい」と話している。

(伊東和貴)